

特別収蔵展

# 俳人 松島十湖 じつこ 展

没後九十八年、浜松に清々しく  
人のため世のために突っ走った人がいた

はままつは 出世城なり 初松魚

浜松八幡宮  
句碑

清

風格のある  
独特な十湖筆

会期 令和6年  
3月1日(金)～6月16日(日)

時 間

午前9時～午後5時

会 場

浜松文芸館 展示室(クリエート浜松5階)

主 催

浜松市 (公財)浜松市文化振興財団

入場無料 3月11日(日)は休館 4月以降も月曜日が休館となる場合があります。  
お問い合わせください。



家康公ゆかりの地

公益財団法人  
浜松市文化振興財団  
Hamamatsu Cultural Foundation

浜松文芸館の管理・運営は浜松市文化振興財団が行っています。

- JR浜松駅より徒歩10分 遠州鉄道「遠州病院駅」東隣  
遠鉄バス「県総合庁舎」「常盤町」バス停下車
- 駐車場はありません。提携駐車場OGURIパーキング1,2をご利用の場合は駐車時間に応じて割引いたします。



浜松文芸館

〒430-0916 浜松市中央区早馬町2番地の1  
電話・FAX 053-453-3933

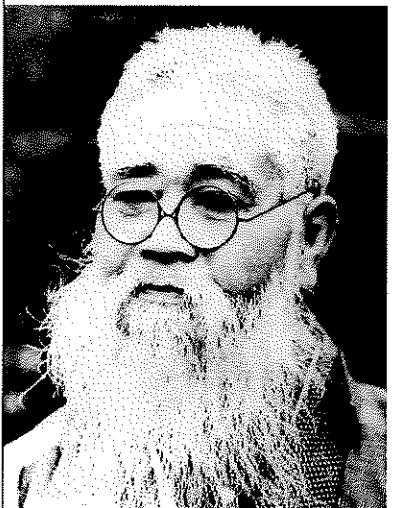
俳人

# まつしまじつこ 松島十湖

豊田郡中善地村(現浜松市中央区豊西町)生まれ

1849(嘉永2)年～1926(大正15)年

本名「吉平」天竜川右岸の由緒ある農家の長男に生まれ、五歳から松島家菩提寺である源長院で読書習字などを学び、十歳から小笠郡横須賀村撰要寺に住み込み、漢籍、書道、仏典を学びました。そして、十四歳の時、大瀬村の棚木夷白(とちぎいはく)に弟子入りし、俳句を学び始めました。その後も学び続けた十湖は、十八歳の時、小田原の福山滝助に二宮尊徳の報徳の道を学び、人のため、世のために行動する人生を歩んでいきます。



松島十湖年譜

一八四九(嘉永2)年三月十七日 中善地村(現豊西町)に生まれる

一八六三(文久3)年 一四歳

大瀬の俳人年立庵棚木夷白に入門 俳号十湖

後に、許されて十六歳で判者披露をする

一八六七(慶応3)年 一八歳

小田原の福山滝助から報徳の道を学ぶ

一八六八(明治元)年 一九歳

夷白から年立庵の号を継承

一八七二(明治5)年 二三歳

中善地村に三才報徳社を組織、社長になる

一八七三(明治6)年 二四歳

戸長制度実施、中善地村戸長となる

一八七五(明治8)年 二六歳

天竜川堤防決壊を率先指導により防ぐ

一八七六(明治9)年 二七歳

浜松・静岡両県合併、静岡県会議員となる

一八八一(明治14)年 三二歳

西遠吟社設立

一八八三(明治16)年 三四歳

十湖発起による天竜川豊田橋完成

一八九八(明治32)年 四九歳

俳友団体日本正風会発足、会頭となる

一八九九(明治33)年 五〇歳

遠蕉風会設立、会長となる

浜名郡会議員当選議長となる

一九〇一(明治34)年 五一歳

芭蕉贈位運動で上京 春湖十七回忌追福献詠

一九〇六(明治39)年 五七歳

浜名郡会議員満期 この後公職を離れ、報徳

一九一一(明治44)年 六二歳

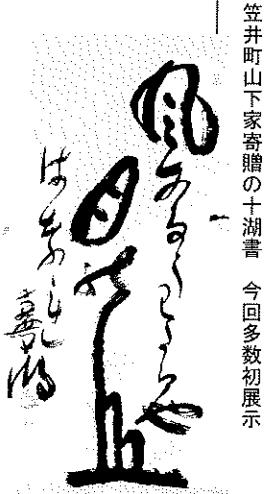
と俳諧に専念 全国各地を吟行

一九二六(大正十五)年 七七歳

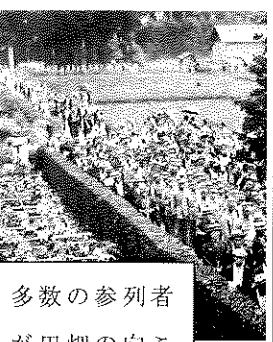
鷹野弥三郎と岸つきの結婚実現のため、つぎ

七月十日 死去 村葬による葬儀が源長院で行われる

浜松鴨江寺に十湖の銅像建立(太平洋戦争で供出



笠井町山下家寄贈の十湖書 今回多数初展示



多数の参列者が田畠に向こうまで続く

風かるくわたらるや月の山はなれ 大蕪十湖

十湖の葬儀(写真 源長院蔵)

展示では、十湖の俳句の紹介にとどまらず、ふるさと天竜川の洪水に見舞われる中で奮闘した姿や、地方行政の官吏、郡長としての活躍、数々のエピソードなどを織り交ぜ、なぜ今で人々から「十湖さん」と親しみを込めて呼ばれるのかを考察しました。金原明善や浜松尾張町生まれの作家“鷹野つき”とのつながりも紹介します。